

月刊 おかじょうき

<http://www.okajoki.com/>



2024

12

故・奈良一艘 追悼特集	4
無人駅鑑賞「カンテラ」 むさし	10
会員雑詠集「無人駅」	13
■例月句会結果■	
おかじょうき川柳社 11月例会	25
十和田たてがみ川柳会 10月句会報	31
川柳吟行会「ぼ」	34
Infomation	38～

おかじょうき川柳社 会員の皆様へ  
**大事なお知らせです。**

これまで紙での冊子で発行していた「月刊おかじょうき」ですが、昨今の物価高騰に加え、郵便料金の値上げなどを考慮した結果、皆さんからいただいている6,000円の**年会費では、今後の運営が厳しい**との判断となりました。

また、そんな状況の中、「年会費の増額」という皆さんへの負担を大きくすることも避けたいと思い、熟慮した結果、断腸の思いではありますが、**印刷物による柳誌の発行を断念**することといたしました。

これからは、おかじょうき川柳社のウェブサイト上の電子柳誌を、毎月、**誰でも年会費不要で閲覧**できるようになります。

その代わりに、印刷・郵送コストの大幅な削減が可能となり、**2025年からの年会費を現在の6,000円から4,000円に値下げ**いたします。

会員の主な特典としては以下の通りです。

- 月例会や会員雑詠集「無人駅」に投句できます！
- 川柳データベースに作品が掲載されます！
- 当柳社が主催する誌上句会等が参加費無料になります！
- 青森の美味しい特産品がたまにもらえます！ etc.

会員の中でも、スマートフォンやインターネット環境が整っていない方がおられることも重々承知しておりますが、現状ならびに今後も持続可能な柳社運営のための措置であるということをご理解いただければと思います。

# 弔詞

当柳社員の奈良一艘さんが10月29日午前5時に逝去されました。  
心からご冥福をお祈りいたします。  
今号では、むさしさんの弔詞と皆さんから寄せていただいた弔句を追悼特集として掲載いたします。



一艘さん、むさしです。  
お知らせがあつたとき、真つ先に駆けつけなければいけなかったのに、行けなくてすみません。  
きょうもSinさんに代読をお願いしました。お許し下さい。

ご子息の第司(だいじ)さんから「眠るように逝きました」と第一報をいただいて、それから昼も夜もボオーツとあなたのことを思い出しています。

あなたと初めて会ったのは確か二十数年前、青森のスナック「花の木」の二階で開かれた川柳の句会だった。  
斬新な句を作る、ごつくて爽やかな男、というのが第一印象でした。

あなたはその後、蟹田の佐々木旅館で毎月開催されるおかじょうきの句会に顔を出してくれるようになり、数ヶ月後、句会が終わつてから「むさし、お前と飲みたい」「お前の家に泊めてくれ」と言うのでわが家へ移動し、朝まで語り明かしたことを覚えています。

の作品が2千句近くありました。

あれは、間違いなく、永遠に輝き続ける川柳界の宝物です。

話が長くなりましたが、もう少し言わせてください。

あなたが凄腕川柳家であることはもちろんですが、見事な川柳評論家であることも忘れはしません。

月刊おかじょうきに連載した「深艘心理」に多くのファンがいて、それを証明しています。

ところで一艘さん、奥様とお会いできましたか？

もしかししたら、天上からわたしを覗き見て「むさしの弔詞、下手だな」と二人で笑っているかもしれませんね。

楽しい思い出ばかりで話は尽きませんが、どんなときも私を応援してくれた優しい優しい先輩奈良一艘さん、長い間本当にありがとうございました。

今夜は月にぶら下がるつもりです。

またいつかどこかで会いましょう。へば！

令和6年11月3日

おかじょうき川柳社 代表 むさし

奈良一艘の川柳に対する情熱は半端じゃなかった。

それから少しして、今度は、平館沖で釣った大きな鯛をそのまま持つてわが家に現れ、持参の包丁で刺身にしてくれました。

あれがまた、実に美味かった。

ついでに、わが家の包丁も研いでくれましたね。

次の日、あなたが研いでくれた包丁の切れ味を知った家内が、朝まで飲んで泊まったときには迷惑そうな顔をしていたのに「一艘さん、今度いつ来てくれるかな」と言ったのを思い出します。

次に、句のことですが、仙台の大会で発表された

泣けるだけ泣いたら月にぶら下がる

という句が今も鮮明に記憶に残っています。

この句が読み上げられ、こんな句を一体誰が作れるんだ、思い切った発想が何とも言えない、と思つた瞬間、呼名したのがあなたでした。

以来、この句とあなたにあこがれ続けています。

話は変わりますが、おかじょうき川柳社のホームページにある「川柳データベース」を調べたところ、あなた

山に初雪一艘の舟旅に出る  
舟一艘粋に艶やかに海へ  
暴れん坊一艘飛ばし過ぎだろ  
陸奥にオレを透かした硬骨漢  
さようなら あっという間の月の満ち欠け  
おかじょうき天国支部は任せます  
まだ長い廊下の話聴いてない  
耳元の声は今でもざらめ味  
一艘さんが待っていらぬ金木駅  
いつそーという呼名きこえて木犀香  
忘れない一艘作の寿司の味  
長〜い廊下の向こう 優しい舟がゆく  
此の世という病衣脱いだか羽化したか  
天ざるの深艘心理的ズルル  
もみぢして山のあなたで笑ってる  
さよならは天命だからちゃんと聞く  
なが〜い廊下わたればきつとパラダイス  
月明かり彼は鰻重的でした  
いつかまた会おう十七首の海  
この世でもあの世でも会う私たち  
サヨナラは突然に今夜は涙雨  
くしゃみしてますね高いところから  
美味しそうな星を一艘さんと呼ぶ

野沢省悟  
藤田めぐみ  
高瀬霜石  
芝岡かんえもん  
吉田州花  
Sin  
三浦蒼鬼  
峯島 妙  
片倉卯月  
なかはられいこ  
浅利猪一郎  
潤 子  
きざらぎ彼句吾  
守田啓子  
広瀬ちえみ  
一帆  
瀧村小奈生  
北里深雪  
真島久美子  
樋口由紀子  
村上あつこ  
安藤なみ  
佐渡真紀子

ぢいさんがロマンチックな星になる  
憎めない笑顔残して good luck  
船底の温みを抱いていく、ずっと  
廊下の向こうには永遠の笑顔  
ぢいさんのオーロラがまだ揺れている  
そして今わたしの海の舟になる  
弁当に苺 パズルのひとかけら  
漕ぎ出せば一人っきりのダマシ舟  
真似出来ぬ宇宙を吐いたオヤジさん  
異次元の言葉紡いで星になり  
何も浮かばない拳を握るだけ  
聞きたかったな 長い廊下の話の続き  
待たせてる人へ漕ぎ出す 神無月  
深読みもう一度読みたい！ノデアール ウム  
ほなまたね〜と残して逝った手の温み  
丁丁発止愉しかったわ茜雲  
もう一度聞きたい なが〜い廊下の話  
三日月に腰掛け釣りをしたいよ  
ユニークな一艘さんの句を見たい  
馬の目ふつと一艘さんの目のふつと  
芝居がかった握手しちゃって逝っちゃって  
夕陽へとぶの早すぎるでしょ 一艘さん  
早すぎるアナログがいいと言ったのに

夏草ふぶき  
ひとは  
四ツ屋いずみ  
土田雅子  
斎藤泰子  
米山明日歌  
菊池 京  
戎 踊兵  
村井規子  
城後朱美  
田中 薫  
吉田吹喜  
熊谷冬鼓  
高木まあこ  
くんじろう  
まきこ  
葉 閑女  
濱山哲也  
瀧尻善英  
笹田かなえ  
滋野さち  
渡邊こあき  
まみどり

# 故・奈良一艘さんへの弔句

## 【一艘さんの息子さん、第司さんからのお礼文】

おかじょうき川柳社の皆様

先日は父の葬儀にご参列、御焼香賜り誠にありがとうございます  
ございました。

また遠いところお越し下さいました皆さま、本当にあり  
がとございました。

心から御礼申し上げます。

至らぬ点、多々あったかと存じますが亡き父の笑顔に  
免じてお許しただければ幸いです。

月刊おかじょうき11月号、皆さまからの弔句とともに  
仏前に供えさせていただきました。

皆さま本当に本当にありがとうございます。

もし、弘前で句会があったりお近くにお越しの際は是非  
よしじんに寄っていただき、一艘の面白話をお聞かせ下  
さいませ。

おかじょうき川柳社皆様がたの今後益々のご活躍ご健  
勝ご多幸を心よりご祈念申し上げます。

奈良第司

ショックです急ぎ過ぎます一艘さん  
秋天へ舟がのぼってゆきました  
東日流野辺丸になれずに漕ぎ出だす  
見ましたか 舟が窓辺へ戻るとこ  
地上で輝いてこそが永遠の星  
長い廊下の話をもっと聞かせて  
話してよ「ペ」と手を繋ぐ棧橋で  
いちぬけた みつけてくれぬかくれんぼ  
何度でも会いたい 猫の長屋にて  
奥様は待っていますね一艘さんの手料理  
コスモスの迷路で風になりました  
死も生もすべて全裸でいいんだネ  
ことばの国へ漕ぎ出す夢のほとりから  
七年の教え活かせずまだヒヨコ  
なが〜い廊下の話続き聞きたい一艘さん  
さようなら一艘さんは桜吹雪に  
バイバイが早すぎたなあ一艘さん  
なが〜い廊下の話聞かせてね  
蒼天を悠悠進む帆掛け船  
寂しがり屋の師匠の顔は仏様  
おやすみなさいお休みなさい一艘さん  
飲み会のお誘いLINE待ってます今度の土曜なんてどうスカ  
星空に奈良一艘が咲いている

石澤はる子  
宮井いずみ  
うつつわ  
福士かれん  
塩の司厨長  
尾崎良仁  
西沢葉火  
月波与生  
藤井智史  
にじの真美  
大黒屋サチエ  
田久保亜蘭  
倉本朝世  
原口健二  
坂本清乃  
吉見恵子  
さいとうみき  
中村誠子  
小野五郎  
笹田隆志  
田沢恒坊  
須藤しんのすけ  
むさし

# 奈良一艘の珠玉の一句

## 【第三弾・最終回】

旅男選

ツマノテヲダイテネタコトアリマスカ  
サヨナラは言ったか夕日沈んだか  
という訳で二病棟五号室

吉田州花選

魂が振り向きざまにギヤティギヤティ  
マヨネーズらしく生きればいいのです  
不埒なデクノボーでした ごめん

まみどり選

なが〜い廊下の話だが 聞かか？  
老人はいいぞアナログがいいぞ  
海へ還る日のカニカマの憂鬱

葉 閑女選

ニンゲンを解く銀河を敷きつめて  
楢山に蟬の抜け殻だけ一つ  
潮騒をいくつ奏でてきたんだろう

村井規子選

潮騒はとても正しい死の匂い  
楢山に蟬の抜け殻だけ一つ  
泣きなさい人恋なさい枯れなさい

瀧村小奈生選

湖になるところに耳を置いておく  
お祭りののののののののの水の音  
ぜんまいのやがてくしゃくしゃな黄昏

渡邊こあき選

かさかさの掌 こわれてゆく時間  
何色のわたしを君は裂きたいか  
禁止事項でやつと私を炊き上げる

妹尾凜選

10月のすこし淫らな実がたわわ  
ヒトヲサスレンシユウカゴメカゴメ  
月蝕が始まる 泌尿器科の裏で

藤田智恵子選

血糖値は正常「行くぞ！ロシナンテ」  
コオロギでアナキストで人間で  
人間合格六十五歳になりました

佐渡真紀子選

「政府軍発砲」生玉子に命中  
泣いてるか泣いていないか嗅いでみる  
潮騒をいくつ奏でてきたんだろう

金瀬達雄選

パトリオットに色即是空と書いてある  
リカちゃんが死んだ ボクだけ残った  
イマジジンがどんどん溜まる洗面器

永見心咲選

泣きなさい人恋なさい枯れなさい  
泣いてるか泣いていないか嗅いでみる  
品性は保ったという曲り茄子

澤野優美子選

月夜から淡谷のりこの窓が降る  
目覚めたら日曜日が降っていた  
ご注文は兎ですか耳ですか

真理猫子選

ルルルと歩けぢいさんだから  
脳内にドンキホーテがまだ一人  
わたくしのどこがヤンバルクイナの

笹田隆志選

「政府軍発砲」生玉子に命中  
唇からテロテロリンと月を吐く  
やわらかくころしてくれないかすぐに！！

なかはられいこ選

体臭は雪だとおもう青い鎖骨  
お祭りのののののののの水の音  
蟹気楼がずっと揺れてるラムネ瓶

青砥和子選

スプリング ハズ カム 体臭を嗅ぐ  
ルルルと歩けぢいさんだから  
合掌のかたちで袋とじは開けよ

浪越靖政選

プチプチを潰す桃井かおりゴッコして  
アンニュイな老後の酔い方曇み方  
したがって蟬になることは止めた

斎藤泰子選

泣きなさい人恋いなさい枯れなさい  
輪の中で溺れたらいい溺れてもいい  
いいえただ老いてゆく気はないのです

にじの真美選

一日に一回は「ペ」になる時間  
核もつか銃か食器を持ちなさい  
ゼンマイのもどる音だよ聴くがいい

三浦蒼鬼選

老人はいいぞアナログがいいぞ  
ツマノテヲダイテネタコトアリマスカ  
たぶんそれはとても正しい濁り方

：

たくさんのご参加、ありがとうございました。  
一艘さんも、とても喜んでいました。



# カンテラ

むねこ

当柳社会員の奈良一艘さんが、とうとうあの世の奥様の元へ旅立たれました。

ホームページで「奈良一艘珠玉の一句」を募集したところ、多くの方々の参加をいただき深く感謝申し上げます。

選ばれた句は、参加者一人一人の胸の中にいつまでも輝き続けることと思います。

また、追悼句も多くの方々からいただくことができました。諸々ありがとうございました。

それではカンテラに明かりを点しましょう。

ちんから峠から投げた落とし前  
どっちつかずが私の今後を聞いてくる

岩根彰子  
熊谷冬鼓

熊谷冬鼓さん、「どっちつかず」は「どっちつかず【何方付かず】いづれとも定まらず、あいまいなこと。」(広辞苑)ですよね。先のことを決められない、そんな自分の中のもう一人の自分が「人生をどう締め括るの?」と聞いてくるってことかな。簡単に決められるもんじゃないよね。

### B群

こんな小石に泣くな あたし	一帆
沸点の高い女の戸を開ける	奥田悦生
傷つけることもあるんだ白い紙	ひとり静
ちよい悪ですか君の探しているものは	まきこ
帰りがたがる素振りへ小出しする銀河	きこぎ彼句吾
キンモクセイ香る 責められてるような	守田啓子
煮崩れる話ばかりをする男	米山明日歌
しあわせの最北端にある阿吽	三浦蒼鬼
欠けたるもあなたらしいと十三夜	柳本恵子

A群  
泣かないと決めても涙出てしまう  
群衆は火星へ僕は君の瞳へ

城後朱美

冬隣みんな施設にお引越し

金瀬達雄

亡き人が両手に余る年の暮

旅男

罪ですか熱い身体で飛ぶ蛍

葉 閑女

筋トレに片足だけを漬けておく

須藤しのすけ

錠剤をひとつ増やして土俵際

田久保亜蘭

スマホデビュー暗くて寒い花の位置

まみどり

天の川着いたら鶴飼いやってみる

吉田州花

あやまちをおかした手だが星ひろう

辻井洋子

淋しくて亡夫の引出あけてみる

鳴海賢治

輪郭がピンと立ってるさようなら

村上てる

似てきたよユダの横顔にききも

峯島 妙

四ツ屋いずみさん、この句の「ユダ」は「ユダ【Judas Iscariot】①キリスト十二使徒の一人。銀貨30枚でイエスを敵に売った。後に悔悟して縊死。イスカリオテのユダ。」(広辞苑)のことですよ。広辞苑には「②転じて、裏切者。背教者。」という語釈もあります。つまり、句の意図するところは、「きみ」が「裏切者」みたいになって来たってことだと思おうのですが、「横顔」に限定しているので少し違うかもしれませんね。「きみ」って誰だろ。

### C群

雨だれが欠伸しながら落ちてくる	芝岡かんえもん
かくれんぼ林に残る赤い「くつ」	戎 踊兵
有刺鉄線ぐるぐる巻いて人許す	夏草ぶぶき
発情期の町がラッピングされている	小野五郎
芝岡かんえもんさん、「雨だれが欠伸」するなんて初めて聞きました。「雨だれ」って「軒先などから落	

ちる雨のしずく。あましずく。」(広辞苑第七版)のことですよね。天から屋根に降った雨が軒先まで流れ、軒先から滑り落ちて「雨だれ」になるんだけど、天から屋根までの旅があまりにも変化に富んでいるので、軒先から落ちるなんてへっちゃら。それで「欠伸」が出たのかな。

戎踊兵さん、『赤い「くつ」の「くつ」はどうしてひらがなのですか。この『赤い「くつ」』は、野口雨情作詞・本居長世作曲の童謡「赤い靴」に登場するあの「赤い靴」とは違うのかな。この句の『赤い「くつ」』を履いていたのはやっぱり「女の子」なんでしょうね。どうして、「林」なんかに残っているんだろ。「北

○鮮」に連れて行かれたんじゃないよね(汗)  
夏草ふぶきさん、この句の「人」はどんな悪いことをしたのですか? 「有刺鉄線」で「ぐるぐる」巻かれたらとんでもなく痛くて身動きできません。そうやって罰を与えたってことでしょうが、そんなことをしたらやり過ぎだつて逆に訴えられますよ。にしても、豪腕ですね。  
小野五郎さん、「発情期」って「町」にもあるのですか。「発情期」は精選版日本国語大辞典によります

と『動物とくに哺乳類が交尾可能な生理状態にあり、交尾をもとめる行動をおこしている時期。一般に雌は排卵の時期に一致するが、雄は同種の雌全個体の発情期に重複し、さらに前後の時期にもいたるので比較的長い。多くの哺乳類は一年に一回の繁殖期にのみ発情するが、霊長類やネズミなどでは「発情周期」が年に何回も繰り返される。』です。「町」は、『まち【町】①田の広さや区画の単位。②宮殿または邸宅の内区画。特に、いくつかの殿舎などの連なつて成り立っているもの。③人家の密集している所を、道路で分けた一区域の称。市坊。④「街」とも書く。商店の立ち並んだ繁華な土地。市街。⑤区分。階層。等級。⑥地方公共団体の一つ。市に次ぎ村より大きいもの。町(ちよう)。⑦市・区を構成する、市街の小区分。⑧物売る店。⑨遊里の外。(広辞苑第七版)』といろいろな「町」があります。この句の場合は③でしょうか。あれ?⑨かも。それにしても、「町」が「発情」して、それがきれいに包装されているって不思議な光景ですね。「町」って、いつでも「発情」していそうだけ、違うかな。

おかしなようき川柳社会員雑誌集

# 無人駅

★無人駅年度賞

裸の人に引き出しが付いている

小野五郎

★無人駅11月月間賞

逢う夜は全裸の滝になる私

米山明日歌

三浦蒼鬼【みうらそうぎ・青森県黒石市】

しあわせの最北端にある阿吽  
全力で時計の針に追われ 秋  
あつという間に想定外のしかし  
スケジュール通りに老いるから寒い  
猫の手を借りたいほどの猫の世話

先月号の  
お気に入り  
不自由の自由パソコン家出中 熊谷冬鼓  
パソコンが使えないと金縛りになっちゃいます!!

峯島 妙【みねしまたえ・大阪府大阪市】

満月をアルミホイルであたためる  
負の遺産人差し指で潰しとく  
バナナでは人を切つても死にません  
今度こそ帰ろう夕焼けはピンク  
輪郭がピンと立ってるさようなら

先月号の  
お気に入り  
月光を浴びると脱ぎたくなってくる 小野五郎  
気持ちいいでしょうね。夜のプールを裸で泳ぎたい。

村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

舌先三寸コロコロ変わるスローガン  
どうしても波長の合わぬ奴という  
大谷に恋して今日もテレビ前  
夢の中いつも何かを探してる  
足腰の痛みを共に歩いてく

先月号の  
お気に入り  
間違いか勘違いかはパンの耳 熊谷冬鼓  
どつでも良いことですね

村上てる【むらかみてる・青森県青森市】

杓寿くる心に残る日を送る  
輝いた過去なつかしむ枯れ芒  
つるされた折紙のトキ佐渡をさす  
日がのぼる今日一日をふんばるぞ  
淋しくて亡夫の引出あけてみる

先月号の  
お気に入り  
じっと手を見る昭和平成令和 三浦蒼鬼  
過ぎ去った時代を乗り越えて来た手を見る。想いにふけ  
ります。又これからも元気で過ごしましょう。

宮井いずみ【みやいいずみ・大阪府大阪市】

顔半分欠けた埴輪も走りだす  
生牡蠣の吐息が伏線になって  
シャーペンの芯はポキポキ負け惜しみ  
お御籤によるとZUMBAがいらしい  
ハイマツになります皆様ご理解を

先月号の  
お気に入り  
棚上げた自分が10巻まで揃う Sin  
Sinさんが終着駅に書かれた選の判断材料、腑に落ち  
ました。

村井規子【むらいのりこ・青森県大鰐町】

早く来る老いと今夜もサシで呑む  
親よりも先に逝かなきゃそれでいい  
大好きな人が皆逝くによ私  
寄せる波悔いで出来てた波の花  
「ごめんささい」積んで崩れて賽の河原

先月号の  
お気に入り  
桜吹雪的「色即是空」は見ましたか 奈良一艘  
私は自然葬の希望者で花は桜がいいと思っています。一  
艘さんから見て綺麗な桜になれたらと思います。

守田啓子【もりたけいこ・青森県三沢市】

スーパームーン乗せたら舟が出る話  
キンモクセイ香る 責められてるような  
ああそれは黄色い線の向こう側  
ヒヨドリフォン でたらめでいい生きる  
しらしらと母らしらしとオルガン

先月号の  
お気に入り  
赤い糸解けば放浪癖が出る 瀧尻善英  
相棒の見たことない放浪癖、見たいような気がします。

柳本恵子【やなぎもとけいこ・奈良県奈良市】

欠けたるもあなたらしいと十三夜  
テーブルの訳ありリングの自己主張  
前頭ですが時々金星もらえます  
海賊版ミルト本物ノ涙デル  
QRコード決済だけで今日も過ごす

先月号の  
お気に入り  
自慢するもの何もないの外は雨 まぎこ  
なんかいいなあ なんかわかるなあ。

葉 閑女【ようかんによ・青森県青森市】

雲脱いで王妃のごとき津軽富士  
マスクミは知らないKの偉大さを  
FMを軽んじているNHK  
新聞も辞めちまおうかテレビのように  
亡き人が両手に余る年の暮

先月号のお気に入り  
よどみない手順で死者になってゆく  
全くな。あの人もこの人も……。  
柳本恵子

吉田州花【よしだしゅうか・青森県青森市】

夏帽子片す最後の秋に入る  
誰も知らない病床のその後  
消しゴムで消せるものなど信じない  
唐辛子編んで吊るして小さい秋  
スマホデビュー暗くて寒い花の位置

先月号のお気に入り

吉田吹喜【よしだふぶき・青森県弘前市】

いないいないばあ 歯ごたえのない麺みたい  
さえざえと夜明けのスキヤット意識して  
残酷な時の流れよノンシユガー  
何倍も良い人になる年金日  
小さい人ツスねと言われた夜更け

先月号のお気に入り  
おつきさま 誰をも泣かせませんよに  
本当に誰も泣いてほしくない  
斎藤泰子

四ツ屋いずみ【よつやいずみ・北海道札幌市】

インディアンサマーつて悠長すぎよ  
ヅカのネーミングの柿買いためる  
似てきたよユダの横顔にきみも  
晩鐘の端で見つけたぐりとぐら  
秋霖あとのチクタク音が澄ましてる

先月号のお気に入り  
棚上げた自分が10巻まで揃う  
ちゃんと棚上げた自分を客観視してるところが偉いです。私は流してばかり…(汗)  
Sin

米山明日歌【よねやまあすか・静岡県長泉町】

わたくしがゴムの木だった頃の朝  
すぐ腐る約束ばかりある手帳  
不都合をおいて小箱の知らんぷり  
煮崩れる話ばかりをする男  
わたくしを見つけてくれぬ隠れんぼ

先月号のお気に入り  
逆上がり 何度も自分を蹴るように  
自分を蹴る。だから逆上がりは 難しいんですね。納得です。  
Sin

安藤なみ【あんどうなみ・愛知県瀬戸市】

海苔半分玉子一個があれば足る  
寒中に鬼千匹のウエディング  
新米の粒ぶつぶつと夜もすがら  
やすやすと峠をこえる黙示録  
横手からアート目線のはぐれ雲

先月号のお気に入り  
月光を浴びると脱ぎたくなってくる  
狼になるのですね  
小野五郎

一帆【いちほ・秋田県秋田市】

種一つ見つからない自己肯定感  
今ひとつしつくりこない渡り方  
見本ならあった カウンターパンチ  
岸に咲くコスモスらしく揺れてみる  
こんな小石に泣くな あたし

先月号のお気に入り  
耳鳴りの一瞬止んで今が逃げ時  
逃げ時探してみました。  
四ツ屋いずみ

岩根彰子【いわねあきこ・京都府京都市】

ちんから峠から投げた落とし前  
その昔バンドネオンを産みました  
水掻きがわちゃわちゃ寂しくはないか  
マカロンと塩煎餅の同行二人  
雌鶏が温めている不完全

先月号のお気に入り  
もち吉をぶら下げて夕陽来る  
あり得ないことが書かれていて痛快。もち吉も夕日もとても身近で、これぞ川柳。  
守田啓子

戎 踊兵【えびすようへい・青森県外ヶ浜町】

曇天の少し不安な心地良さ  
かくれんぼ 林に残る赤い「くつ」  
朝の天井は 今日も水面だった  
花言葉知らぬ振りして鉢を買う  
退屈を追いかけている水すまし

先月号のお気に入り  
棘ぬいたあとに夕日を入れてみる 米山明日歌  
何年か前に見た日本海の、血のような濃い色の夕日を思い出しました。

奥田 悦生【おくだえつお・三重県伊勢市】

魂の高さに触れる阿弥陀佛  
嫉妬心高くて君を見失う  
高いのはやっぱり旨い大吟醸  
沸点の高い女の戸を開ける  
蝶になり甘いあなたの蜜を吸う

先月号のお気に入り  
ふわりとカモミールここから象時間 きささぎ彼句吾  
今宵から湯割り片手に象時間

きささぎ彼句吾【きささぎあくあ・青森県弘前市】

帰りがたがる素振りへ小出しする銀河  
ルビだもの花だとしてもカスミソウ  
鎌の月になるのは見られたくないのよ  
秘めごとの雫 おぼろ月の雫  
ヒリヒリヒリ またゆびきりに囚われる

先月号のお気に入り  
なんだかなあなんだかあって微炭酸 熊谷冬鼓  
そうしていると都合のいいひとにされちゃうよ

熊谷冬鼓【くまがいとうこ・青森県青森市】

遠回りだった 林檎の芯だった  
取り替えた眼鏡で仰ぐ月の暈  
どっちつかずが私の今後を聞いてくる  
聞き取りがうまくできないカタツムリ  
コスパが良いからって 二日で飽きる虹

先月号のお気に入り  
耳鳴りの一瞬止んで今が逃げ時 四ツ屋いずみ  
「今が逃げ時」に緊迫感があつて応援したくなる。

小野五郎【おのごろう・青森県青森市】

防空壕に出入りしている虎落笛  
機関銃いやいやしながら排泄す  
チューブから出てくる小麦色の肌  
逆走用デロリアン1頭飼っている  
発情期の町がラッピングされている

先月号のお気に入り

金瀬達雄【かなせたつお・富山県高岡市】

我孤独ゆえに我ありカフカ教  
群衆は火星へ僕は君の瞳へ  
長髓彦の長いコンパス専守する  
ハンセンのラリーアットから遠い秋  
踊るデモ高田純次と夜明けまで

先月号のお気に入り  
さよならが少しまじった「愛してる」 柳本恵子  
そういう瞬間ありました。

古川啓子【こがわけいこ・青森県蓬田村】

骨太の金魚の尻尾は薔薇色  
「サイギサイギ」 岩木神社の登山道  
秋になり猫がちよくちよく独り言  
ハグもいやただひたすらにニヤオ飯  
ダメージジーンズの穴から覗くセピア色

先月号のお気に入り

斎藤泰子【さいとうたいこ・秋田県大館市】

まだ少し残るプライド喉にある  
経験も役に立たない老いの闇  
味のある人だ焼きホタテの味だ  
空き缶ベコンどこか屈折してる音  
攻めてみるそんな無謀を笑う月

先月号のお気に入り  
母さんが母さんになる死化粧 一帆  
母に死化粧する日が必ず来る。そして順に私ができる日も来る。それでいい。

坂本清乃【さかもときよの・青森県蓬田村】

野辺に友缶コーヒーで弾む空  
丸く生きようとすれば尖る僕の芯  
晩秋の紋白蝶は眠り姫  
嶽きみに劣らず甘いきみを喰う  
まだ鋤を持つていいよと岩木山

先月号の  
お気に入り

嵯峨山登【さがやまと・佐賀県大和町】

××××だ俺もヒデ×も××××だ  
エイリアンからガイコク人になり候  
日本×民ではないが日本人  
〇〇もレッドリストに入れませう  
ご指摘をくださいOFFになります

先月号の  
お気に入り

スマホだけ持って行きませす逝く時も 村上あつこ  
妙に共感してしまいました。

笹田隆志【ささだたかし・青森県青森市】

赤マンマ散る窓際の活断層  
視界不良です週末の世界地図  
句読点を隠したままの遺言書  
友の死を超えられますか秋の雨  
陽だまりの銀閣寺にて逢いましょう

先月号の  
お気に入り

舌の根にくらげの骨が刺さってる むさし  
私の心臓にはクラゲの骨がささっています。

芝岡かんえもん【しばおかかんえもん・神奈川県横浜市】

あがるあがる凧になつていいるのだ 俺  
いきなり飛び蹴りをされた日曜日  
雨だれが欠伸しながら落ちてくる  
もう充分だと思いたいのだ 汗  
穴が空いている 直し方わからん

先月号の  
お気に入り

割に合わない神様ばかりなんだよな Sin  
まさにその通り。実感もります。

城後朱美【じょうごあけみ・福岡県八女市】

精一杯生きる母です手を握る  
また来るね母は笑顔で頷いた  
かあちゃんと読んでも返事をしてくれぬ  
ミッキーと写る笑顔の母がいた  
泣かないと決めても涙出てしまう

先月号の  
お気に入り

そうか 夜 お前もひとりぼっちだったんだ Sin  
母のいない家は、広すぎて……。ぼっかりと穴があいて  
ます。

Sin【しん・青森県外ヶ浜町】

君のその震えている正義も正義  
「真実は粘土みたい」と朝にもたれて  
一億総啄木 ちつと明細を見る  
ふたりの数え歌には八がない  
ポンコツでありたい こんな道だから

先月号の  
お気に入り

テトラポッドが父だったころのわたしは 米山明日歌  
いついこうでCMにいくんだよなあ。

須藤しんのすけ【すとうしんのすけ・青森県弘前市】

太陽も月も私の味方です  
小指でつつくおっぱいの先つぽ  
泣き顔も生きてたことも覚えてる  
罪ですか熱い身体で飛ぶ蛍  
忘れなきやいけない恋をお一つどうぞ

先月号の  
お気に入り

納得をするまで棒になるつもり 三浦蒼鬼  
その融通の利かなさって、めちゃめちゃ素敵でめちゃめ  
ちゃ大切です。

瀧尻善英【たきじりよしひで・青森県八戸市】

何にでも心は変わるヒトは水  
少し毒あるから絶対止められぬ  
マドンナを手に入れたのに光らない  
匙はプリン街を舐み行く戦車  
かごめかごめ輪の真ん中に修羅の首

先月号の  
お気に入り

断捨離が進まぬうちにボケが来た 村上あつこ  
さあ、たいへん。認知症にならないよう川柳を作句して  
防止しなくっちゃ。

田久保亜蘭【たくぼあらん・秋田県五城目町】

代表はリングの上に立ちなさい  
殺伐は割り箸割ってから始め  
水深0メートルで過去がばれた  
筋トレに片足だけを漬けておく  
愚かであるつてすばらしい雪ダルマ

先月号のお気に入り

旅男【たびお・青森県五所川原市】

大丈夫？朝一番の糸を張る  
体毛踊るおぞましき病みよ  
当たらないに幸あれ中らない  
冬隣みんな施設にお引越し  
持て余すのも死までの時間

先月号のお気に入り  
わたくしのベサメムーチョな紙おむつ 奈良一艘  
私も親の股座を見るのは辛かった。泣くな父さんみんなベサメムーチョせ。

田中 薫【たなかかおる・青森県弘前市】

スーパームーンハンパンナイ居心地カモ  
山頂で生き絶えるつてスゴイかも  
ファンファーレさあ古希に向け生きましょか  
れれれの叔父さんに癒されて窪み  
君のほっぺから朝日が膨らんだ

先月号のお気に入り

辻井洋子【つじいようこ・青森県青森市】

話し合い準備体操終わったか  
札をして秋刀魚きれいにおろします  
さざ波に聴かせるように子守唄  
満月を愛でる肩凝り軽くなる  
天の川着いたら鵜飼いやつてみる

先月号のお気に入り  
高齢者みんながなれば怖くなる 葉 閑女  
そこら中、高齢者がウジャウジャつて、怖いかも。

夏草ふぶき【なつくさふぶき・青森県青森市】

指切りの指の先から出る波紋  
来る来ない水出しコーヒー砂時計  
「め」から「ぬ」になったところで落ち着いた  
カメムシと一緒に入る一番風呂  
有刺鉄線ぐるぐる巻いて人許す

先月号のお気に入り  
どうしても連になっちゃう昨日 きらぎ彼句吾  
どうしても今日でも明日でもなく昨日なんでしょう、気になります。

ひとり静【ひとりしずか・奈良県大和郡山市】

傷つけることもあるんだ白い紙  
銀紙くしゃわかつてくれぬことばかり  
大空へ貼つてやろうか白い鳩  
ぼんやりした黒で迫るのはずるい  
ミルフィーユあまり当てにはしないけど

先月号のお気に入り  
欠けててもいいんだよって十六夜が 四ツ屋いずみ  
十六夜が言うならいいように思えてきた

鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

あやまちをおかした手だが星ひろう  
こどもだましのつもりハーモニカふく  
ききわけのよくないものがふたりいる  
いたるところにありました鈴の音が  
消しゴムで消してはならぬ朝の月

先月号のお気に入り  
入院の母は卵になる眠れ 嵯峨山登  
インバクトありました。

まぎい【まぎい・青森県青森市】

ちよい悪ですか君の探しているものは  
お好みは秋刀魚サイズの人かしら  
居心地がステキ紅茶が美味しいの  
その手帳秘密の部屋に置いてきた  
いい加減太る話は止めましょう

先月号のお気に入り  
高くなる鼻はしばらく押さえます 辻井洋子  
わかりました。わたしもそうします。

まみどり【まみどり・青森県黒石市】

リバウンド以上に育ちすぎている  
ストレスと秋の味覚の一騎討ち  
錠剤をひとつ増やして土俵際  
打開策あるけどだどり着けぬまま  
その道はカレーとシチューで揺れている

の月号  
先月お気に入り

いいそびれていました完敗でした 鳴海賢治  
一応そう言っておけば安泰・なのかな。

むさし【むさし・青森県蓬田村】

タイムマシンが停車している本能寺  
クレオパトラに抱きしめられて目が覚めた  
笑顔には反応しない顔認証  
麒麟の首に梯子を掛けるプロジェクト  
影ばかり集まって来る金曜日

# これから海へ行く

11月2日(土) 午後1時～ アウガ5階 小会議室

▼出席者(13名)

きさらぎ彼句吾・守田啓子・藤田智恵子・船橋敏昭・葉閑女・  
夏草ふぶき・笹田隆志・むさし・熊谷冬鼓・高木まあこ・小野  
五郎・まみどり・Sin

▼投句者(20名)

嵯峨山登・奥田悦生・岩根彰子・須藤しんのすけ・柳本恵子・  
宮井いずみ・米山明日歌・芝岡かんえもん・戎踊兵・村上あつ  
こ・峯島妙・斎藤泰子・郷田みや・鳴海賢治・一帆・坂本清乃・  
城後朱美・まきこ・安藤なみ・旅男

無人駅は自由な発表の場です。  
未発表作品5句をお寄せください。  
また、お手元の最新号から、お好きな作品とそれ  
に対する簡単なコメントもお寄せください。

スマホやタブレッ  
トで投句する↓



おかじょうき川柳社

11月例会

席題『特』

青森県弘前市 きさらぎ 彼句吾選

【佳作】

早寝早起き特異体質だとしても 葉 閑女  
 特盛りの牛井ツイッギーの脚を組み 藤田智恵子  
 こんな日は特殊な色に染まりたい 高木まあこ  
 平手打ちする特権が震えてる 藤田智恵子  
 目で合図されても困る千鳥足 まみどり  
 ただいまと言ったらおかえりと笑う まみどり  
 スズメバチ完全装備でやって来る 小野五郎  
 はずれますフツの道が性に合う 高木まあこ  
 路肩駐車してるアキノキリンソウ 小野五郎

外れクジが功を奏することもある 熊谷冬鼓  
 銀鱗を隠し持つてる大まぐろ 夏草ふぶき  
 葬儀屋で特売してるアイマスク 笹田隆志  
 頭蓋骨の後ろに把手を付けられる むさし  
 お願いが芽づる式にやってくる 熊谷冬鼓  
 フラフープ回わして広げる台所 小野五郎

【秀逸】

舌の下にもう一枚の舌がある 夏草ふぶき  
 特養の甘納豆のずつと秋 守田啓子  
 人食い鮫と金子兜太の炒め物 むさし

【特選】

ひざまずく十一月のササクレに 守田啓子  
胸にできた特別なササクレなんだろうね。

席題『特』

青森県三沢市 守田啓子選

【佳作】

きつと破調の星になるんだろうな一艘 きさらぎ彼句吾  
 特殊特別特異体質あなかしこ 高木まあこ  
 鰻重の松が待つてる会議室 藤田智恵子  
 早寝早起き特異体質だとしても 葉 閑女  
 はずれますフツの道が性に合う 高木まあこ  
 特盛りの牛井ツイッギーの脚を組み 藤田智恵子  
 今日もまた特別な日にしておこう 葉 閑女  
 特技なら山ほどあるの貧乏性 まみどり  
 特産と限定品に手が伸びる 船橋敏昭

落ち椿特別感を出してくる 熊谷冬鼓

人食い鮫と金子兜太の炒め物 むさし

特殊詐欺ですか厚化粧ですか きさらぎ彼句吾

甘ったるい罨ネ特別粋の粹 きさらぎ彼句吾

舌の下にもう一枚の舌がある 夏草ふぶき

カボチャの馬車を食べてしまったオバアサン むさし

【秀逸】

路肩駐車してるアキノキリンソウ 小野五郎  
 こんな日は特殊な色に染まりたい 高木まあこ  
 特注の靴です空も歩けます 葉 閑女

【特選】

スズメバチ完全装備でやって来る 小野五郎  
敵もヤメてくんながら…。

# 宿題『シヨ』

青森県青森市 笹田隆志選

## 【佳作】

天台声明ゆさゆさゆさ佳境  
 初めまして映画のように始めましょう  
 ありのまま見せて夫婦のとんちんかん  
 軽々と百面相する足の裏  
 天体シヨ地球の喧騒見えています  
 ワンマンシヨ掻き混ぜたのは泡立ち草  
 陣痛や皆んな待つてるシヨertime  
 落丁の底はロックのフェスティバル  
 ショーウインドー己れの値段みてしまう  
 こう見えてポールダンスはお手のもの  
 幕上がる挫折の数はかぞえない  
 ファッションシヨ犬が主役となる時代  
 帽子から立体マンダラ出しますよ  
 ダンシングヒーロー古着も脳も若返る

岩根彰子  
 旅 男  
 斎藤泰子  
 夏草ふぶき  
 柳本恵子  
 熊谷冬鼓  
 芝岡かんえもん  
 岩根彰子  
 芝岡かんえもん  
 まみどり  
 斎藤泰子  
 城後朱美  
 小野五郎  
 柳本恵子

水の出る個室以外は女優です

藤田智恵子

女装したペラノドンのコンテスト

むさし

(スタンディングオベーション) 舟上手へ

旅 男

電柱と馬の役でも女優です

藤田智恵子

シヨーガール今日はちよつぱり熱がある

柳本恵子

サヨウナラミタイケシキハミンナミタ

須藤しんのすけ

## 【五客】

最後には大統領が出る無言劇

小野五郎

ハツタリは効くかとぐる巻く蛇に

戎 踊兵

幕引きのシナリオぢいさんの砂時計

一 帆

世界を救いにちよつと行ってくる

須藤しんのすけ

デスマスクこれが最後のご開帳

きさらぎ彼句吾

## 【人位】

たこ焼を食べたら「ベティーのマヨネーズ」

宮井いずみ

## 【地位】

リクルートされた按摩が教祖様

嵯峨山登

## 【天位】

あばら骨全部並べてますどうぞ

むさし

余程自信のあるあばら骨なんです。う。食べてみたいです。

# 宿題『止』

青森県蓬田村 むさし選

## 【佳作】

強欲なカバの尻尾に止まるハエ  
 気をつけ前ならえあととはやゝめた  
 わかつてます私がいつも最後です  
 出入り禁止帰る所が無くなった  
 赤信号誰が止まれと決めたのよ  
 今日あなた静止画面のままです  
 ブラジャーと日焼け止めから解脱する  
 赤信号ピタリと熊の足止まる  
 つぶやきは止まらなくなる窓開けよ  
 冥界の主は長期離脱中  
 紅葉を止めて露骨に逢いにゆく  
 青信号で止まってしまいうカタツムリ  
 みどりの血止めてください内密に  
 団子茶屋を富士の樹海で開きます

笹田隆志  
 まみどり  
 まみどり  
 村上あつこ  
 まきこ  
 郷田みや  
 峯島 妙  
 安藤なみ  
 高木まあこ  
 葉 閑女  
 守田啓子  
 笹田隆志  
 嵯峨山登  
 夏草ふぶき

夕陽は出たか唐紅の血は止まったか

守田啓子

朝が来たガラスの靴は脱ぎ捨てる

一 帆

特急のレール外して道を開く

夏草ふぶき

ふれないで止まった時計そのままに

高木まあこ

袋小路やつと一人になれました

熊谷冬鼓

バス停で色なき風に聞く訃音

葉 閑女

## 【五客】

アップデート中です少しお待ちください

柳本恵子

どうするのし止めなんかで終わらせて

峯島 妙

静止画になれ小うるさい助動詞

きさらぎ彼句吾

ブルースは体言止めがいいですか

宮井いずみ

笑ってる写真ばかりで動けない

坂本清乃

## 【人位】

酔い止めも飲んだし遺書も残したし

S i n

## 【地位】

止めどなく懺悔ゆれやまぬ秋桜

きさらぎ彼句吾

## 【天位】

バス停に酒池肉林が立っている

小野五郎

近頃のバス停って、怖いだね…。

# 宿題『自由詠』

青森県外ヶ浜町 Sin 選

## 【佳作】

辻つま合わせたくて揺れるブランコ  
 こんなふうになった私を叱れない  
 スカラベを食べて太陽ひねり出す  
 紅葉がエレジーになる七十七  
 気が触れたようにラフマニノフを斬る  
 スリッパの裏のしあわせ椎茸茶  
 さよならは傘のしずくをきつてから  
 あまりにも平凡すぎるからヤバイ  
 正義感あらあら賞味期限切れ  
 各駅でいいじゃん耳でいいじゃん  
 小さな嘘レモンの香りしましたよ  
 誤作動が激しくなった股関節  
 牛タンと狼煙が届く秋の午後  
 三角コーナーかぶっているのが司令官

きさらぎ彼句吾  
 斎藤泰子  
 安藤なみ  
 葉 閑女  
 嵯峨山登  
 宮井いずみ  
 米山明日歌  
 まみどり  
 芝岡かんえもん  
 守田啓子  
 郷田みや  
 むさし  
 守田啓子  
 小野五郎

## 十和田たてがみ川柳会十月句会

○日時 10月26日(土)

○会場 十和田労働福祉会館

○参加者 木村奈生美・久保あざみ・佐藤まさあき・

白山修治・瀧尻善英・福田芳記・村上昌子・高

田幸柳

○投句者 磯島雅男・斉藤蛙井・城後朱美

## ■席題『読む』

村上 昌子 選

### 【平抜き】

候補者も政党も読む票行方  
 早く来い終戦読めるステツプよ  
 立ち読みに貫う暮らしの知恵袋  
 風を読む前にフンドシ締め直す  
 還暦の自分の心まだ読めぬ  
 犯人が見えてスリラー読むを止め  
 目標は 年五十冊 読む意欲  
 本心を読めないアナタ 摩訶不思議

福田 芳記  
 福田 芳記  
 木村奈生美  
 高田 幸柳  
 久保あざみ  
 佐藤まさあき  
 白山 修治  
 瀧尻 善英

### 【秀逸】

仏壇は「どこでもドア」でございます

ウルトラの星にUberの天ざる

省略の形でこの世突つ走る

衣食住足りても花を置けぬ窓

いたるところをついてくるほめことば

折り鶴飛びたつ穴だけ手に残る

## 【五客】

その席に着くそれらしい貌をして

天秤にかける鎖骨と二枚舌

深入りはしません第二バイオリン

許すこと忘れていたわレモン噛む

時間を止めると書かれてあつた処方箋

## 【人位】

深緑あれば梯子になった雨

【地位】  
釣り銭のないよう生きてきた墓標

## 【天位】

ムーミンのパパはこれから海へいく

「まだ行ってなかったんだ。」

須藤しんのすけ

夏草ふぶき

峯島 妙

まきこ

葉 閑女

鳴海賢治

きさらぎ彼句吾

斎藤泰子

葉 閑女

郷田みや

まきこ

むさし

米山明日歌

守田啓子

遅刻した会議でまずは空気読む  
褒めごろし甘い言葉の裏を読む

## 【特選】

よくぞここ衝いた明鏡欄を読む

瀧尻 善英

## ■席題『読む』

瀧尻 善英 選

### 【平抜き】

候補者も政党も読む票行方  
 立ち読みに貫う暮らしの知恵袋  
 読書には 老化防止の 効果あり  
 若者の活字離れを嘆く秋  
 何となく錆びつきそうで本を読む  
 風を読む前にフンドシ締め直す  
 目標は 年五十冊 読む意欲  
 遅刻した会議でまずは空気読む  
 読み聞かせ子らの世界を広げます  
 【秀逸】  
 北風を踏ん張りながら太宰読む  
 還暦の自分の心まだ読めぬ  
 【特選】  
 ライバルと同じ目線で読む空気

福田 芳記  
 木村奈生美  
 白山 修治  
 佐藤まさあき  
 村上 昌子  
 高田 幸柳  
 高田 幸柳  
 白山 修治  
 高田 幸柳  
 久保あざみ  
 木村奈生美

■宿題『予感』

佐藤まさあき 選

【平抜き】

きな臭い予感勘弁ご勘弁  
 落第を感じたテストほぼ落ちる  
 壁超えりや次の試験がありそうだ  
 正論を吐けば向きそう銃の先  
 胸騒ぎ 危ない道は 避けて行く  
 茶柱が立つまで待った宝くじ  
 揺れている好きになりそう予感して  
 当たらんじやないかと引いた貧乏くじ  
 ゆつくりのメトロノームに死の予感  
 予感する自慢話しだ長くなる  
 秋探し太る予感がでもおいし  
 予感した別れ意外に溝深い

村上 昌子  
 瀧尻 善英  
 瀧尻 善英  
 木村奈生美  
 白山 修治  
 高田 幸柳  
 齊藤 蛙井  
 福田 芳記  
 高田 幸柳  
 齊藤 蛙井  
 久保あざみ  
 磯島 雅男  
 木村奈生美  
 瀧尻 善英  
 城後 朱美

【秀逸】

幸運が来そう扉は全開で

木村奈生美

いつの日か四季がなくなる温暖化

瀧尻 善英

【特選】

会いたいと言われてからの不眠症

城後 朱美

■宿題『嫁』

福田 芳記 選

【平抜き】

呆けたって嫁さん欲しいチャレンジと  
 臍の緒を持たせ娘を嫁がせる  
 嫁ぐ娘の後ろ姿に走馬灯  
 片想いだった呼ばれたブライダル  
 目玉焼きしか作れない嫁が来る  
 角隠し覆いきれない過去がある  
 嫁姑 今と昔は 大違い  
 握り飯 嫁の気持を噛みしめる  
 願わくは 共存の道 模索して  
 わがままな嫁だと言われ動じない  
 嫁さんがどつしり構えて家平和  
 嫁去られ寂寥の海に溺れそう

磯島 雅男  
 高田 幸柳  
 村上 昌子  
 瀧尻 善英  
 高田 幸柳  
 白山 修治  
 白山 修治  
 齊藤 蛙井  
 城後 朱美  
 佐藤まさあき  
 佐藤まさあき  
 齊藤 蛙井  
 嫁姑 波風立たぬ 核家族  
 娘が嫁ぎ眠ったままのお雛さま

佐藤まさあき  
 瀧尻 善英  
 村上 昌子

【秀逸】

嫁姑 波風立たぬ 核家族

佐藤まさあき

娘が嫁ぎ眠ったままのお雛さま

瀧尻 善英

【特選】

夫婦別姓嫁いでもいいんだね

村上 昌子

■宿題『喜ぶ』

互選

- ①片手間が売れて嬉しい直売所 瀧尻 善英
- ①合格の喜びを吸う青い空 木村奈生美
- ②包み飲む喜怒哀楽のオブラート 磯島 雅男
- ②産声を喜びで聞き母となる 佐藤まさあき
- ②白寿の日喜び祈願あと一年 福田 芳記
- ③散歩だよ尻尾ふりふり駆けて来る 久保あざみ
- ⑤喜びも悲しみも知る深いシワ 齊藤 蛙井

◆十和田たてがみ川柳会12月句会案内◆

【時】12月21日(土) 午前10時から 【所】十和田労働  
 福祉会館 【宿題】(各題三句詠 『立派』村上昌子選/  
 『リセット』齊藤蛙井選 【互選】(一句詠 『リストラ』  
 当日出席者のみ(句せんの裏に柳号記入) 【席題】『当  
 日発表』(三句詠・共選) 選者は、瀧尻善英ほか出席者  
 から一名 【投句先】〒034-0212 十和田市米田字桜平  
 72 高田幸柳宛

—参加者募集—

# 川柳吟行会「ぽ」

## 課題『林』

「逢いたくて生まれる前の石を積む」これはかなり前の大西泰世さんの句です。

川柳に興味を持ち始めた頃、この句を読み衝撃を受けたことを覚えています。どうすればこういう感性を持てるのだろうか。そして一句でもいい、こんな句を作ってみたいと思いました。

生来自堕落な私は中々作句もままなりません、  
「川柳吟行会 ぽ」は欠ける事なく参加するつもりです。  
(高木まあこ)

【8点】特×3・佳×2

ゆつくりと夕陽をしまう雑木林

吉見恵子

【まあこ】夕陽をゆつくりと仕舞うと言う描写がとてもいい。正に林が眼前に拡がります。【州花】冬は岩木山、夏は津軽海峡に私の住む町の夕陽は仕舞われる。【五郎】感受性豊か。映像が見えてくる。【彰子】野外劇のドン・キホーテを彷彿させて愉快。【さち】木漏れ日とカナカナが響いてくるようです。

【8点】特×2・佳×4

やさしい手だった防風林だった

宮井いずみ

【さち】そう言える手があつて幸せでしたね。特に地吹

雪の時などつくづくありがたく思い出します。【隆志】防風林になれるようなやさしい手を知っています。その人はもう亡くなりました。【善江】「防風林」のような手で大切な家族を守りたいものです。【吉見恵子】手を防風林と比喻したところが暖かく良かった。【踊兵】初孫だった私にとって、まさに防風林のようだった母方の祖母の大きな掌を思い出しました。【州花】振りかえればみんなやさしい。

【5点】特×1・佳×3

どこからが老後 鬱蒼と杉林

熊谷冬鼓

【啓子】老後の入口も出口もわからない現在地をうまく表現していると思った。老後がそんなに薄暗いものとは限らないが。【さち】じめつく杉林だけど、春のシヨウジョウバカマが待ち遠しい。【州花】自分が決める老後、他人が決める老後の乖離は大きい。【五郎】立ちどまって考えさせられる。

林でも森でもなくて一本の樹

守田啓子

【達雄】個・孤で生きる宣言と読んだ。作中主体に共感した。林・森よ、さらば。私も一本の樹。【朱美】凜と

している一本の樹。そうありたい。【まあこ】「一本の樹」が原点（と同時に生きる姿勢）を暗示している。【冬鼓】群れること良しとしない。一本の樹に強い意志。

【4点】特×2

情報の沼から図書館の林

宮井いずみ

【朱美】スマホで本を読むのは苦手、やっぱり図書館。活字で本を読みたいね。【冬鼓】詐欺や中傷が蔓延する現在の情報社会。正に沼だ。対して林と感ずる図書館はマイナスイオンたっぷり場所だ。

音読の雑木林に囲まれる

笹田かなえ

【善江】「音読の雑木林」とは言いえて妙……。情景が浮かびます。【ふぶき】突然の蝉の声だろうか、雑木林に降り注ぐかのように一斉に鳴きだしたのか。音読という表現がおもしろい。

【4点】特×1・佳×2

伐り倒す番号札があるリンゴ園

小野五郎

【文音】伐り倒すという価のあるりんごの樹に番号札をつけていく作業が浮かびます。それが林のように並んで

いるのだろうか。価値のあるもの、無いものの選別。札は赤いのだろうか。【いずみ】発想をリング園に飛ばし、伐採の番号札に焦点を当てた。巧い。【冬鼓】農家の高齢化や作業効率目的で矮化の進む林檎園。伐採木と自身が重なったか。

### 人去りて冬の木立となる学校

福田文音

【妙】廃校がポツンと立っている風景が見えてきます。イメージは木の校舎、そんなはずはないのにそう思わせてしまう。【朱美】八女は田舎、廃校が多くぼつんと残される。【ふぶき】廃校だろうか、生徒のいなくなった学校が冬の木立という表現が絶妙だ。

【3点】特×1・佳×1

### みそ汁に入れる青森産林檎

小野善江

【彰子】林檎をみそ汁に入れる発想と又、念入りに青森産と指定とは厚かましが川柳。【妙】青森ではみそ汁に林檎入れるんですか？

### からからとから松林 師は鬼籍

吉田州花

【かなえ】「からから」と「から松林」はつきすぎかなと思っ

【2点】佳×2

### 林道を老いたケモノの眼で通る

戒 踊兵

【妙】眼が赤く光ってそう。これからはケモノとの共存ですね【いずみ】「老いたケモノの眼」という措辞で想像が広がる。

### 防風林と一緒に吠える

岩根彰子

【達雄】防風林は専守防衛。作者もか？私も一緒に吠えたい。【かなえ】七七句なのかな。防風林と一体化した句姿に迫力があつた。

### 防風林逆走注意と書いてある

熊谷冬鼓

【吉見恵子】今問題視されている高齢者の逆走を取り上げて上手くまとめている。【隆志】防風林を逆走したらどうなるのだろうか。おもしろい発想だ。

### 竹林をお引摺りして帰ります

岩根彰子

【ふぶき】長く伸びた竹を何本も引きずっているのはなぜ？かぐや姫になった気分です遊んでいるのかな。楽しそう。【文音】「お引摺りして」のユーモアにひかれました。

だが、哀悼の念は伝わってくる。「師は鬼籍」が見事。【文音】落葉松と漢字で表記してほしかった句。師を偲ぶなら尚平仮名のからからが生きてくるのではと思いました。

### ブナ林になんとかなると言わせてる

守田啓子

【いずみ】山崩れが頻発してブナ林の価値が見直されている。手遅れの感があるが、ブナ林はなんとかなると言ってくれるのか。【まあこ】白神のブナ林よ永遠なれ！の気持ちですね。

【2点】特×1

### 尾道や猫の細道林芙美子

小野善江

【吉見恵子】林芙美子は尾道にゆかりのある人。尾道の特徴を猫の細道、林芙美子と並べているだけだが猫の細道が映像的に効いていて楽しい句。

### 山王の林たましい霧になる

金瀬達雄

【踊兵】あの神域の林から立ち昇る霧は、参拝した人の昇華した魂だったのですね。行けるなら行ってみたいですが、その林。

竹林を覗いた時の暗さを思い出しながら。

### ひざまずく林の中の九輪草

吉田州花

【彰子】九輪草、作者、読者が一体になれた。【踊兵】林の中の九輪草は、群落はもろろん、一本だけでも近付いて見てみたいという衝動が湧いてきますよね。

【1点】佳×1

### 星とキミだけ林間学校の夜

峯島 妙

### 杉木立ベッドに眠る十三夜

高木まあこ

### 廃線の林思い出の目隠し

村井規子

### 栗林 縄文人の風立ちぬ

福田文音

### 盗まれた木々も高級家具となる

夏草ふぶき

### わらべ歌「靴」は林を出られない

戒 踊兵

### あなたの眸 迷い込みたい林です

高木まあこ

## おかじょうき川柳社ウェブサイトからの投句について

現在、おかじょうき川柳社のウェブサイトは、サーバー移転のため、一部サービスが使用できない状況となっております。

みなさんがよく使用する「投句ページ」もすべて Google フォームへ移行して対応しています。

ただ、投句された方から、「画像認証がうまくいなくて投句できない」という声が多く寄せられています。これは、ロボットによる大量投稿を防ぐためのセキュリティとして行われています。

画像認証が出てくる人と出ない人がいますので、下記の方法をいくつか試してください。

### ①「Google Chrome」でウェブサイトを開覧する。

Android のスマホだと標準で「Google Chrome」となっているのですが、iPhone は標準が「Safari」になっているため、画像認証が出てくるようです。**iPhone の方は、右の QR コードから「Google Chrome」をインストール**してみてください。



### ② Google アカウントを作成する

iPhone の「Safari」を使用していても、**Google アカウントを作成してログイン**すれば、画像認証は出てこなくなります。Google アカウントを作成しておけば、いろいろなサービスがありますので、作ってみてはいかがでしょうか。



### ③画像認証を突破する

画像認証は右の例でいうと、9つのタイルから自動車が映り込んでいるものを**すべて選択**します。なかには、ギリギリに映り込んでいるものもありますので、注意が必要です。

ただ、**間違えても全然大丈夫**なので、それらしいものを選択して「確認」を何度か押してみれば突破できるはずですよ。



わかりにくい問題だった場合、ここで問題を変えれます

### □ 2025.01.15 第 13 回卑弥呼の里誌上川柳大会

【課題・選者】『自由吟』熊谷岳朗・大西泰世 / 『ごめん』横尾信雄・赤松ますみ / 『洗う』兵頭全郎・鈴木順子 / 『ジグザグ』淡路放生・木本朱夏 / 『台詞』平尾正人・樋口由紀子 【投句】専用投句用紙利用（コピー可）【参加費】1,000円（切手不可）発表誌呈（令和7年4月初旬発送予定）【締め切り】令和7年1月15日（水）消印有効【投句先】〒842-0103 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町大曲2426-2 卑弥呼の里川柳会 真島久美子 電話・FAX 0952-52-1061 【賞】各題特選1句 有田焼 / 各題佳作5句 図書券（その他サプライズ賞あり）【主催】卑弥呼の里川柳会

### □ 2025.01.19 第 89 回新春川柳大会

【日時】令和7年1月19日（日）【席題発表】午前10時（10時受付開始）【会場】弘前プラザホテル（弘前市代官町101-1）TEL 0172 (35) 0345 弘前駅より10分【会費】4千円（弁当発表誌）\*懇親会はありません 【宿題】（各題2句詠・共選 投句拝辞）「穴」北山まみどり・むさし「急がば回れ」守田啓子・田沢恒坊「欲望」滋野さち・長谷川酔月「しよぼしよぼ」沢田百合子・渡辺松風 【席題】（各題2句詠・共選）「 」熊谷冬鼓・三浦蒼鬼「 」笹田かなえ・野沢省悟 【我洲杯】（1句詠・3人共選）\*採点 特選1句＝2点 佳作15句＝1点「顔」成田我楽・岩崎雪洲・佐藤ぶんじ 【賞】宿・席題合点により1位に紗光杯、2位に寿久杯、他20位まで 我洲杯3位まで ◆宿泊ご希望の方は1月10日までに、次にご連絡下さい。 〒036-8227 弘前市桔梗野3-3-3 千島鉄男 TEL 0172-34-3392 【主催】弘前川柳社【後援】弘前文芸協会

## ■おかげょうき川柳社 会員募集中!

おかげょうき川柳社会員希望の方は、下記の口座までお振り込み下さい。

### 【会員特典】

- 月例会や会員雑詠集「無人駅」に投句できます!
- 川柳データベースに作品が掲載されます!
- 当柳社が主催する誌上句会等が参加費無料になります!
- 青森の美味しい特産品がたまにもらえます! etc.

→郵便振替 No.02280-6-43112 口座名:おかげょうき川柳社  
→会費:4,000円(1年分)

## おかげょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

**熊谷冬鼓** toko@okajoki.com FAX.017-752-3759  
(〒039-3502 青森市久栗坂字浜田87-2)

## 終着駅 Sin

◆10、11月号の「終着駅」で書いた「選者」と「読者」について、いろんな方からコメントをいただいた。中には悩まれた方もいるようだが、その方は正解だと思う。時代が変わり、社会が変わり、文化や言葉が急激に変化していく中で、やはり川柳も普遍的なものと変わらなければならない部分の更新作業は常にしなければならない。これが絶対正しい、というのはいつの時代も存在しない。悩み続けることが大事なんだと思う◆さて、その「選者」と「読者」の違いを踏まえたうえで、今度は「作者」としては、どう向き合えばいいのかという話になる。「選者」には独創性、技術性をアピールし、「読者」には共感性や浸潤性をアピールしなければならない。この二つを併立させる作品を仕立てることはそう簡単なことではない。そのアプローチの仕方はひとそれぞれ、千差万別あるが、30年ほど川

柳に携わってきて感じたことは、急激に上手になったなと思う人にはある特徴がある。それは「ものまね」である。誰の作品だろうと、「いい表現」「いい単語」と思ったら恥ずかしげもなく自分の作品に取り入れる。そのままパクるのはいけないのだが(汗)、一部分のエッセンスを切り取り、自分なりに仕立てることが重要だと思う◆もともと、仏教では「学(まね)ぶ」と言い、真似ることが学ぶことだった。スポーツの世界でも「技術は教えられるものじゃなく、盗むもの」と言われるくらい、一旦、真似をすることを経て、そこで終わらずに、自分なりに応用し取り入れていくことが、上手への近道のように思える◆今号が今年最後の号。いつも、おかげょうき川柳社を支えていただいている皆様に感謝、感謝です。来年も皆さんのご健吟とご多幸をお祈りしております。よいお年をお迎えください◆Sin

## おかげょうき川柳社 作品募集案内

### □ 2024.12.11 ㊄ 「川柳吟行会 ぼ」12句会

【投句締切】12月11日(第2水曜日)【題・投句数】『駅』2句【合評句会】12月18日(第3水曜日)青森駅前アウガ5階で14:00~【投句・問合せ】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛 \*それぞれの地で一人吟行して作句し投句願います。参加者全員による選・選評をメールで交換。入選句・選評等は後日月刊おかげょうきに掲載。尚今回をもってこのネットでの句会は終了と致します。



### □ 2024.12.20 おかげょうき会員雑詠集「無人駅」5句(2月号分)

【締切】12月20日必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句(最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入)【掲載】2/10発行号【ウェブサイトからの投句】http://www.okajoki.com/【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛



### □ 2025.01.04 おかげょうき川柳社本社1月句会

【日時】1月4日(土)午後2時~(㊄開始時間変わりました)【所】アウガ5階小会議室【投句締切】1月3日(金)15時【宿題】(各題3句詠)『高い』『菜』『自由詠』【席題】1題3句詠・2人共選。選者は当日の参加者より選出【川柳ラボ】互選句『スマホ』1句【ウェブサイトから投句】http://www.okajoki.com/【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛



### □ 2025.02.08 おかげょうき川柳社本社2月句会

【日時】2月8日(㊄第2土)午後2時~【所】アウガ5階企画ワーク室③④【投句締切】2月7日(金)15時【宿題】(各題3句詠)『尖る』『煮』『自由詠』【席題】1題3句詠・2人共選。選者は当日の参加者より選出【川柳ラボ】互選句『トランプ』1句【ウェブサイトから投句】http://www.okajoki.com/【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛



